

科目名	会計情報論			
開講学期	1年次秋学期、2年次春学期			
教員氏名（カナ）	友岡 賛（トモオカ スム）			
単位数	2			
授業実施方法	対面授業			
教育の実務経験の有無	無		ノートPCの利用	無
実務経験	該当なし			
キーワード	説明責任、利害調整、意思決定支援		アクティブラーニングの実施	無
授業の目的と概要	本講義は、会計情報の機能について種々の面において考える。説明責任の意義について考え、会計情報の利害調整機能および意思決定支援機能の捉え方について考える。如上の論点を通じて会計学に固有の論理を知り、その意義を理解する。とりわけ経済学的な考え方と会計学的な考え方の異同を理解する。会計情報論を材料として事物の論理的な整理および説明の意味を理解する。			
到達目標	1	事物を論理的に整理・説明することができる		
	A+	論理的な整理・説明が完璧にできる		
	A	論理的な整理・説明ができる		
	B	論理的な整理・説明がある程度はできる		
	C	論理的な整理・説明が余りできない		
	F	論理的な整理・説明が全くできない		
	2	会計学的な考え方を理解している		
	A+	会計ないし会計学的な考え方を完璧に理解している		
	A	会計ないし会計学的な考え方を理解している		
	B	会計ないし会計学的な考え方をある程度は理解している		
	C	会計ないし会計学的な考え方を余り理解していない		
	F	会計ないし会計学的な考え方を全く理解していない		
	3			
	A+			
	A			
	B			
	C			
	F			
	4			
	A+			
	A			
	B			
	C			
	F			
	5			
	A+			
	A			
	B			
	C			
	F			
履修上の注意	講義をよく聴き、不明な点は遠慮なく質問すること			
教科書・教材				
基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須				
推薦	会計学の基本問題	慶應義塾大学出版会	2016年5月	
	会計と会計学のレーゾン・デートル	慶應義塾大学出版会	2018年2月	

参考文献		
ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応		
ディプロマポリシー（大分類）		対応
D1	社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を見出す能力	◎
D2	課題解決に役立つデータサイエンスに関する汎用的な知識とスキル	
D3	（1）の能力を起点に（2）を重ね合わせ、社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を具体的に解決し得る方策を導き出す能力・スキル	
D4	（3）で得られたソリューション（解決策）を社会等に訴求すべく具体的に働きかけるコミュニケーション力と行動力を備えたスキル	
D5	データ社会にあって（1）～（4）の一連のプロセスで発生し得る倫理上の課題を適切に認識する能力を備えたスキル	◎
成績評価方法		レポート100%（2回。それぞれ50%）
試験・レポート等に対するフィードバック		
授業時間外の事前事後学修		
	内容	学習時間
事前学習	次回の授業の範囲について下調べをする	2 h
事後学修	授業において示された論点を整理し、考察を加える	2.5 h
授業計画		
1	会計における情報提供の意味を学び、会計行為の存在意義を理解する	
2	会計における情報提供の機能を学び、とりわけ利害調整機能と意思決定支援機能の異同を理解する	
3	会計における情報提供の分類を学び、とりわけ財務会計と管理会計の異同を理解する	
4	会計情報の作成および提供における基本的前提を学び、とりわけ継続企業の意味を理解する	
5	会計情報の作成および提供における基本的前提を学び、会計における企業観を理解する	
6	説明責任と受託責任の関係を学び、会計行為の存在意義を再確認する	
7	会計情報作成の認識段階における原則を学び、発生主義会計の意味を理解する	
8	会計情報作成の認識段階における原則を学び、とりわけ収益認識の在り方を理解する	
9	会計情報作成の認識段階における原則を学び、収益と費用の対応関係を理解する	
10	会計情報作成の測定段階における原則を学び、取得原価主義会計の問題点を理解する	
11	会計情報作成の測定段階における原則を学び、取得原価主義会計の長所を理解する	
12	会計情報作成の測定段階における原則を学び、取得原価主義会計に代わる種々の会計システムの特徴を理解する	
13	会計情報の伝達における原則を学び、会計情報の機能を再確認する	
14	会計情報における実質優先思考を学び、会計学と経済学の考え方の異同を理解する	
SDGsとの関連性		
4.質の高い教育をみんなに 12.つくる責任つかう責任 16.平和と公正をすべての人に		